

上ノ河北小で食育体験授業

収穫の秋を迎え、上ノ国小児童と河北小児童が、自ら育てた農産物の収穫作業を行いました。これは、生産から加工までの流れを学び、食に対する考えを深め、食の大切さを目的に、地域の農業者の協力を得て開催されている食育授業です。

10月1日、上ノ国小学校では、菊池和雄さん（北村）の協力を得て、児童たちが春の代掻きから田植え、収穫まで自分達で行い、主食であるお米がどうやって作られているかを学びました。

10月10日には、地元の農業士でもある森啓介さん（字中須田）、片石唯乃さん（字中須田）の助けを借りて、河北小学校児童が裏の敷地に植えたサツマイモを収穫し、11月に給食として児童たちが調理する予定です。

地域の協力を得て、両小学校の生徒たちは、食べ物がどうやって出来るかに触れ、社会について実体験を交えた学びができたようです。



災害と火災、備え万全に

9月22日、火災や災害への対応力向上を目的として、上ノ国消防団（長谷川俊郎団長）総合訓練大会がスポーツセンター前駐車場で行われ、団員72人が参加しました。

この日は、各分団ごとに行動訓練、実際の機材を使用した放水・中継訓練が行われ、日頃の訓練の成果を披露していました。

今年度から、上ノ国消防団総合演習を総合訓練大会と改題し、例年以上に訓練の密度が濃い内容で行われましたが、その背景には



近年頻度と被害の増加が叫ばれて、火災に対する危険感があつた。参加した団員の方々は、こうした訓練が、災害や火災が発生した際に活かせることを実感している。真剣な面持ちで訓練に臨んでいた。

スポーツの秋に、武を競い合う

9月22日、町内において、空手道及び剣道の全道大会予選となる檜山大会が本町で開催されました。上ノ国町スポーツセンターで開催された空手道の試合では、広いアリーナ全面を使い、本町の空手少年たちが『形』と『組み手』で技を競い合ったほか、剣道少年団は上ノ国小学校にて試合が行われ、檜山から集まった剣豪たちと本町の剣士が竹刀を交えました。

また、本町少年団は両大会においてそれぞれ選手宣誓を務め、空手道少年団は山本蒼くん（字大留）と小林稟陽くん（字大留）が、剣道少年団は鈴木翔くん（字大留）が、それぞれスポーツの秋にふさわしい爽やかな意気込みで宣誓していました。



動物愛護精神の啓発を

9月22日、20日から26日の動物愛護週間に合わせて、道の駅もろじゅのドッグラン施設を利用した「動物愛護フェスティバル2019（檜山振興局主催）」が開催されました。

同イベントでは、プロの調教師を招き、お散歩・お座りといった基本動作やフリスビーなどが学べる催しが行われたほか、飼い主と愛犬が参加する運動競技会も行われ、普段からのしつけと絆が試されました。

町内外から多くの飼い主と愛犬が参加しましたが、見事優勝に輝いたのは、原歌地区在住の松原さんとその愛犬ララちゃんです。お話を伺うと、『厳しくしつけをしたという感じではありませんが、小さいころからずっと一緒に過ごしているなかで、少しずつ意識してしつけながら自然に身についたものだと思います』と話し、普段から自然体で接するまさに動物愛護の姿勢が、ララちゃんに届いた形となりました。

